

「浸種」と「種子消毒」は

特に ていねいに 確実に

長岡農業普及指導センター
稲作情報（号外）

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

- **今年のコシヒカリBLの種子は、休眠が深い**
浸種は、水温12°C 積算水温120°C をめやすに

コシヒカリBLは休眠が深い — 浸種を確実にを行う

- 今年のコシヒカリBLは、発芽ぞろいが悪かった前年並みに休眠が深いと推定されます。発芽ぞろいを良くするため、例年以上に注意が必要です。
- コシヒカリBLは、浸種水温は12°C、浸種の積算水温は通常年より高い120°Cをめやすとします。

積算水温

コシヒカリBL ---- 120°C (12°C×10日) がめやす

発芽ぞろいを良くする — 浸種初期の水温は10°C未満にしない

- 浸種初期を10°C未満の低水温にすると、発芽ぞろいが悪くなります。
積雪が多く、春先の水温は低いことが予想されます。
浸種初期の水温を10°C未満にしないよう、例年以上に注意が必要です。
- 酸素不足にならないよう十分な水量（種子粒容量の2倍程度）を確保するとともに、水の更新を適切に行いましょう。

「ばか苗病」の発生防止 — 温湯消毒は必ず微生物農薬を併用する

- 近年、ばか苗病の発生が多くなっています。
- ばか苗病は、適切な種子消毒を行い「発病させない」ことが重要です。（発病してしまうと、防除薬剤がありません。）
- 温湯消毒だけでは化学合成農薬による種子消毒に比べて防除効果が劣ります。
必ず、微生物農薬と組み合わせた「体系処理」を行いましょう。
- プロクロラズ剤（商品名：スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE）に耐性を示す「イネばか苗病菌」の発生が、県内で確認されています。
種子消毒に化学合成農薬を用いる場合は、他の薬剤を使用しましょう。